

自他のよさに気付き、認め合うことができる児童の育成 —課題解決ゲーム・成長タイムの活動を通して—

特別研修員 生徒指導・教育相談 川崎 和史 (小学校教諭)

【目指す児童像】自他のよさに気付き、認め合うことができる児童

【手立て1】 (事前)

課題解決ゲーム

で課題を**焦点化**

『課題解決ゲーム』

友達と協力することの必要性に気付くよう計画されたゲーム

- ① 課題解決ゲームを行うことで、学級の課題を焦点化する。
(例:他者意識が低い)
- ② 学級の課題を解決するため個人目標を設定する。

個人目標の例

相手の立場に立って考え、みんなが集中できるように声を掛ける。

個人目標の例

みんなが楽しめるように、地図をよく見て、案内する。



実践②

学級対抗長縄大会

それぞれのよさを発揮しながら、力を合わせて、長縄大会の練習を行う。



実践①

修学旅行

一人一人の行動を見つめ、互いのよさに気付きながら、班別行動を行う。

【手立て2】 (事後)

成長タイム

で成長を**実感**

『成長タイム』

自己評価や他者評価を受けることで成長に気付く振り返り活動

自己評価

声を掛けて練習できた。

他者評価

頑張ってる声を掛けている姿がみんなに勇気を与えていた。

自己評価

一度も間違えずに案内できた。

他者評価

地図をよく見てくれたから、安心して行動することができた。

自分のよいところにも気付きました。



児童の実態

- 限られた人間関係の中で過ごすことが多いため、グループ以外の友達のよさに気付いていない児童がみられる。

教師の願い

- 学校生活において、友達のよさを知り、互いを認め合ってほしい。

成 果

- 課題解決ゲーム実施後に考えた個人目標では、多くの児童が人間関係を重視した目標を設定することができた。
- 児童が互いのことを考えながら活動をしたため、振り返りにおいても、よさを数多く見付けることができ、それを伝え合うことで、認め合う人間関係を築くことにつながった。

課 題

- 行事の活動に集中しすぎて、個人目標を忘れてしまう児童がいた。
- 個人目標に立ち返らせて、言動を確認することが必要である。